

リフト燃料に廃食油

サステナブル経営めざす



白石倉庫

植物由来の再生可能エネルギーギーをディーゼルエンジ

【宮城】白石倉庫(大宰栄一社長、宮城県白石市)は、フォークリフトの燃料に植物性廃食油を導入し、二酸化炭素(CO₂)排出の削減に努めている。大崎市にバイオマス資源活用プラントがあることから、まずは配送可能な仙台地区の拠点にある既存のフォークリフト10台の燃料を7月10日から廃食油に切り替えた。サステナブル経営を目指す中、NX商事(秋田進社長、東京都港区)の提案を受けて実現した。

NX商事の提案受け

用の軽油の代替燃料とする例は東北ではまだ珍しく、先進的な取り組みと言える。軽油と比べてCO₂の排出を5%削減できるのが特徴で、軽油引取税の免税対象となる。

太宰社長は「当社の悩みに耳を傾け、良い解決策を提案してくれたことに感謝している。軽油と比べてCO₂の排出を5%削減可能で、軽油引取税の免税対象に

る。既存のリフトをそのまま使うことが可能で、廃食油を再利用できる点が気に入った。今後もSDGs(持続可能な開発目標)に前向きに取り組むため、できることから始めていく」と話している。

NX商事は2022年10月から、顧客の課題を引き出して最適な提案をするロジスティクス・トータルソリューション(LTS)のサービスを展開しており、今回は双方の思惑が一致した。モノやサービスを

売ら込む提案ではなく、パートナーとして課題にアプローチして解決を目指していく考えだ。NX商事営業本部の長野貴志担当部長は「少ない労働力の中でSDGsに取り組みなければならぬのは大変。これからも積極的に話を聞き、トータル的なソリューションで共存共栄を図っていきたい」と意欲を見せている。